

一般国道54号(可部バイパス)建設に伴う埋蔵文化財
トンガ坊城跡発掘調査通信

とんがぼ 第2号

(財)広島市文化財団
文化科学部文化財課

発掘調査は天気しだい(>_<)

トンガ坊城跡の発掘調査がはじまって、早いもので1ヶ月以上が経ちました。

さて、7月の前半は雨の日ばかりで足踏み状態でした。発掘調査は土の色や固さ、粒子の大きさなど、微妙な土の違いをもとに掘り進んでゆきます。せっかく掘っても、どろどろで土の見分けがつかなくなってしまふ雨の日は、調査を進められないのです。

もともと、7月も後半になると今度はカンカン照りの日々。掘るそばから土が乾いて白くなってしまっていて、これはこれで困り物なのですが。

現在の発掘調査

発掘調査の第1段階として、調査範囲の各所に幅50cm~1m、長さ5m~10mの溝を掘り込むトレンチ(試掘坑)調査を行っています。

トレンチ調査は、遺跡全体を掘る前に、あらかじめどのような地層が堆積し、どの地層まで掘ったら遺跡が発見されるのか、また遺跡のどこにどのような遺構が埋もれている可能性があるのか、といった情報を得るために行います。



特にトンガ坊城跡は、中世の山城の他に、弥生時代や古墳時代の遺跡も残っている可能性があるため、「とんがぼ」第1号参照)目標とする地層をはっきりとさせるこの作業は、非常に重要なのです。

とんがぼ考古学メモ

遺跡と土

どうしてわかるの？

発掘調査中の遺跡では、いろいろな形や大きさの穴がボコボコあいています。家の跡や墓穴など、昔の人が掘ったものを掘りなおしたのですが、なぜ穴があることや、その形がわかるのでしょうか。

ある穴の一生

昔の人が穴を掘り、その穴がやがて埋もれていく様子を図にしてみました。

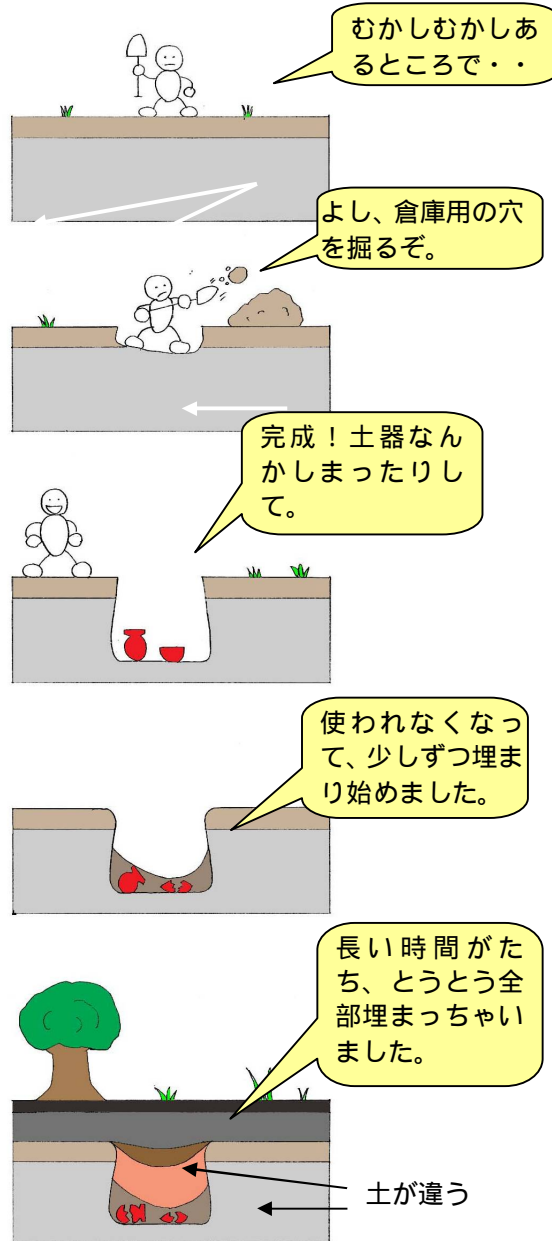
せっかく掘った穴も（図～）使われなくなると、雨で土が流れこんだり、落ち葉がたまったり、時には人間が埋めたりなど、いろいろな理由で埋まってゆきます。（図）

こうしてたまった穴の中の土は、穴が掘り込まれた地層の土と、色や硬さ、粒子の細かさなどの性質が違ってきます。

違いの判る・・・

この土の違いを追うことで、昔の人が掘った穴が姿をあらわすのです。（図）

もちろん、土の見分けにはそれなりの知識と経験が必要なのですが、そこは一応プロっていうことで（^^）



トンガ坊城跡発掘調査に関するお問合せ
財団法人広島市文化財団文化科学部文化財課
広島市東区光町二丁目 15 番 36 号
TEL082-568-6511
ホームページ <http://www.mogurin.or.jp>
発掘調査現場直通 090-6433-6743

現場の見学できます！
ただし、深い穴や溝が多数あり大変危険ですので、調査作業が行われていない時はご遠慮ください。
なお、現在はトレンチのみですので、見学して面白くなるのはもう少し先になります。